



中国日本商会

今どきコラムー48

中国雑談

### また深センから香港を眺める

毎月何回か深センに出かけている。香港に行く通行証を持たないので、三十数年前と同じく深センから香港を眺める。

香港へ買い物に行きたい衝動は今もあるが、三十年前のあの憧れは今どのくらい残っているだろうか。かつて泳いで香港に行けた場所は、今は林ができ、林の中には柵のような物があるようで、近づけなくなった。1984年ごろか、地元の人からときどきひそかに大陸を離れて香港に泳いでいきたい人が溺死して海辺に流されてくることを聞き、真夏なのに鳥肌が立った。

その後も1980年代後半にはときどき深センへ取材に出た。深センにはどんどん建物ができ、街に香港の流行歌が流れてきて、香港の誰彼と「結婚」したという話もずいぶん聞いた。深センでは皇崗村、下沙村、広州の祈福新村、東莞の樟木頭には、香港のトラック運転手などの「愛人村」まで出ているとも聞く。当時、トラック運転手が中国本土へ往復すると4~5000香港ドルの長距離運転手当が支給されたそう。自分は就職してから7年経った1989年に月給がやっと70元と記憶している。比べてみれば、香港の運転手は想像を絶する高収入だった。広東ではピーク時の推定によると、香港関連の愛人数は数万人か数十万人に上ったといわれ、「愛人村」は香港のブルーカラー専用の「花園」だった。

今思うと、当時20歳そこそこの人も今や40過ぎ、50前後になっている。深センかどこかで買ってもらった住宅は、香港の下町住宅より値段だけは高くなったのではないか。その後、小さな店でもやったら、売上高などは香港での商売より高く、元運転手の旦那は、ほんとうに大事にされているだろうか。

深センで少し調べた。2010、2011年には、香港のGDP総量は上海、北京に逆転された。現在では、珠江デルタの「両雄」と言われる深圳、広州にも近づかれている。香港の現在の伸び率では、香港ドルと人民元の為替レートに大きな変動が発生しない限り、2018年に広州、深圳が香港を超越すだろう。私の立っているところから香港の港が見えないが、



テレビの画像を思い起こし、今もかなり繁盛しているだろう。しかし、コンテナ取扱量で香港は 2007 年ごろすでに上海に追い越され、2013 年には、隣接する深センにも追い越された。香港の運転手はかつてのような高収入の仕事をまだ持つだろうか。わずか二十年か三十年でこんなにも変化するなんか快く思うだろうか。香港の若者の気持ちはわからなくはない。

三十年前には香港にはいろんな商品があり、買いたかった。しかし金はなかった。今もきっといろんな商品があり、しかも深センより遥かに値段が安いだろう。かすかな憧れは心に残ってただ遠い香港を眺めていた。

(『日系企業リーダー必読』編集長 陳言)